



○昭和20年以降に渡来し、次第に繁殖地を広げてきた植物で、雑木林の伐さいあとによく生える。

べにばなぼろぎく(きく科)



アフリカ原産で、第二次大戦後渡来した。葉は互生し、大小不同の鋸歯がある。花序は下向きにつき円筒形、筒状花のみからなり、先は赤レンガ色をしている。

花期 8~12月

草たけ 30~70cm

生育地 林の中、伐採地あと

▲かながれい(かやつりぐさ科)

多年草で稈は三角形、多くの小穂が密につく。

花期 8~10月

草たけ 50~120cm

生育地 池、沼、川辺



○小穂(しょうすい)…イネ、カヤツリグサ科の花序をいう。



○鋸歯(きょし)…

葉のふちがのこぎり状になっているようす。

◀あぜな

(ごまのはぐさ科)

1年草で、葉は対生で鋸歯はない。花冠はうすいピンク色で葉のつけ根につく。

花期 8~10月

草たけ 10~20cm

生育地 田のあぜ、水湿地